

# グループで取り組む環境経営

カシオは持続可能な社会の実現に向けて、2050年を見据えた長期的な視点に基づく「カシオ環境ビジョン」を新たに設定し、環境に配慮した環境経営に取り組んでいます。

## CO<sub>2</sub>削減が環境経営の最重要課題

取締役副社長 榎尾 幸雄

カシオは創業当初から、より小さく、薄く、軽く、ローパワーな製品をつくることに、力を注いできました。もとより資源が少ない日本で、商品価値を高めるためにいかに材料やエネルギーを節約しながら、ものづくりをするかを考えていたのです。環境問題がクローズアップされる以前から、カシオのものづくりには、環境負荷を減らす姿勢が根付いていると言えます。

カシオグループは、環境負荷の小さい製品を作ることはもちろん、生産や事務も含めた、企業活動全体において環境負荷の低減に取り組む「環境経営」を実践しており、特に重点とすべきテーマは「カシオ環境宣言」として明文化しています。

「カシオ環境宣言」に掲げられている中でも、最も重視しているのが、国際社会が総力を挙げて取り組んでいるCO<sub>2</sub>の削減です。私たちメーカーが社会に果たすべき役割として、具体的なCO<sub>2</sub>削減の数値目標を定めた2020年、2050年に向けた「中長期行動目標」を立て、すぐに行動することを決めました。平坦な道のりではありませんが、持てる技術を注ぎ込み、グループを挙げて、達成を目指します。

また、私たちの社会は、さまざまな生物が共存する「生物多様性」の上に成り立っています。企業活動においても、生態系を破壊することなく、豊かな生命を育てていくための努力をしなければなりません。今後、事業活動が生態系へ及ぼす影響評価を行い、必要に応じ対策を講じて、次の世代へと、かけがえのない地球を受け継いでいきたいと思います。



### カシオ環境宣言



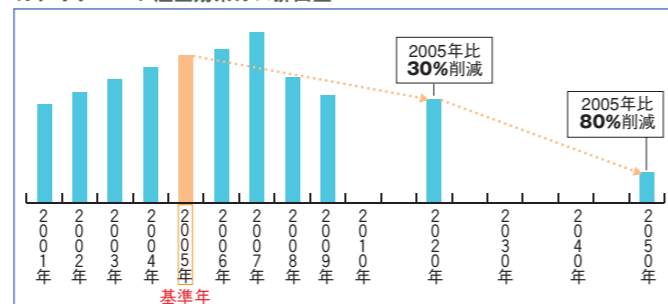
1. CO<sub>2</sub>の削減と吸収
2. クリーンエネルギーの活用
3. 資源の有効利用
4. 事業活動の再生可能エネルギー導入
5. 生態系の保全

## 中長期目標

カシオグループは、カーボンニュートラル※の実現を目指しつつ、2050年に世界の平均気温を2℃以内の上昇に抑えるためには、当社においても2005年比80%の削減が必要であると考え、長期目標としました。次に、その長期目標達成のためには、2020年に少なくとも2005年比30%削減が必要であると判断し、中期目標としています。

※カーボンニュートラル：弊社の定義により、CO<sub>2</sub>排出量と同じ量のCO<sub>2</sub>削減、吸収効果を別の手段によりオフセット（相殺）することを意味します。

カシオグループ温室効果ガス排出量



## 中長期目標策定の考え方

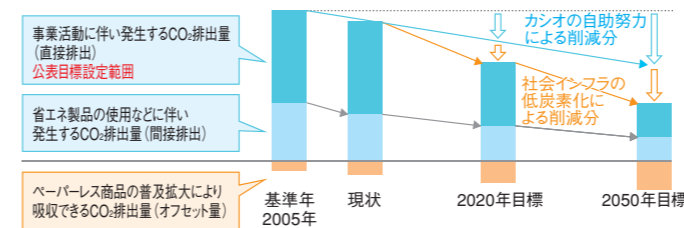
中長期目標を策定するにあたり、温室効果ガス削減を図るとともに、将来的にカシオグループからの温室効果ガスの排出量をゼロにする、「カーボンニュートラル」を目指すことを重要課題と位置付け、下記の環境経営方針を設定しました。

「小型・軽量・薄型・省電力のモノづくり」により、新しい市場の創造と文化の形成に貢献するとともに、カーボンニュートラルな企業を目指す

## 排出削減目標の範囲

中長期目標の策定に際して、国内、海外の生産拠点、オフィス拠点における事業活動に伴い発生する温室効果ガス発生範囲を公表目標設定範囲として定めました。さらに、物流、製品使用、従業員移動、委託生産に伴い発生するCO<sub>2</sub>排出量も含めた、カシオグループとしての温室効果ガスの排出総量に対して、データプロジェクター、電子辞書などのペーパーレス商品に代表される環境適合型製品によるCO<sub>2</sub>削減効果などをオフセットとみなすことにより、カーボンニュートラルの実現を目指そうと考えています。

CO<sub>2</sub>排出量削減の中には、カシオグループが自助努力で削減する部分に加えて、電力などのエネルギー供給や社会インフラ全般の低炭素化による削減分も含まれています。



## 2020年に向けた施策

2020年 中期目標達成に向けては、下記の取り組みを実施検討し、なるべく早い段階で2050年の目標達成の実現可能性が見えるように努力していきます。

1. 事業活動に伴う各工程におけるCO<sub>2</sub>排出量削減
  - ・材料調達／製品製造／輸送／物流／使用／リサイクル・廃棄
  - ・物流におけるCO<sub>2</sub>排出データ取得範囲の拡大、輸送効率向上、モーダルシフト
  - ・生産設備の省エネ化、生産プロセスの改善
2. 事業所における非化石燃料使用の比率拡大
  - ・LED照明の導入
  - ・太陽光発電パネルの導入
3. 製品による環境貢献
  - ・製品の使用電力削減
  - ・製品梱包サイズの縮小、最適化
  - ・太陽電池で動作する製品比率の拡大
4. カーボンオフセットの活用
  - ・ペーパーレス商品拡充によるCO<sub>2</sub>吸収効果（立木伐採の回避など）
  - ・製品に対するカーボンオフセット購入
  - ・植林／緑化の推進
  - ・排出量取引／CDM（クリーン開発メカニズム）／JI（共同実施）

## 環境に配慮した取り組み

### 省エネに配慮した八王子技術センター



八王子技術センター

2003年11月に竣工した八王子技術センターは、設計当初から環境配慮設備を取り入れた研究開発棟です。

「高効率立型蓄熱槽」「自然換気システム」「照明制御」「予測制御」といった省エネ手法を導入し、設備の効率的な運用を行っています。

八王子技術センターでは、2006年に東京都から最高位のAAA評価を受け、都知事より表彰されました。

### 地熱を利用したヨーロッパオフィス



カシオヨーロッパの新オフィス

カシオヨーロッパは、2009年に、これまで分散していた拠点を新設の省エネビルに統合しました。空調システムは、地下約130mにある地熱採取装置から汲み上げた水を施設内に循環させ、夏は冷房、冬は地熱を使った暖房として機能させています。その他、天候に合わせて自動開閉するブラインドなどを導入しています。